

令和6年度 公表基準に基づく医療事故等の包括公表

1 レベル別集計 ※1

レベル分類	患者影響度	医療センター	八幡病院
		報告件数 (件)	
0	行為には至らなかった	4 2 5	4 6 0
1	一般的な検査を要したが影響がなかった	1, 1 5 1	1, 0 0 6
2	精密検査を要したが影響がなかった	1 3 6	7 6
3の1	軽微な処置・治療を要したが治癒	1 4 3	1 0 7
3の2	濃厚な処置・治療を要したが治癒	3 7	2 2
4の1	寛解・軽度の障害が残った	3	0
4の2	重大な障害が残った	1	0
5	死亡	3 ※2※3	0
合 計		1, 8 9 9	1, 6 7 1

※1 過失の有無にかかわらず、全事例報告することとしています。

※2 うち2件は原病の進行や術後合併症によるもので、処置時の対応に問題はなく無過失です。

※3 うち1件は処置時の対応に問題はなく無過失と考えておりますが、第三者機関である医療事故調査等支援団体に入っただき、医療法に基づく医療事故調査を実施中です。

2 分類別集計

種 別	医療センター		八幡病院	
	報告件数(件)	事故割合(%)	報告件数(件)	事故割合(%)
与薬	4 8 3	2 5. 4	3 5 2	2 1. 1
転倒・転落	4 0 6	2 1. 4	1 8 0	1 0. 8
チューブ・ライン類	3 0 3	1 6. 0	2 1 4	1 2. 8
調剤・製剤管理	9 2	4. 8	1 0 5	6. 3
検査	7 3	3. 8	1 3 0	7. 8
食事	6 5	3. 4	6 7	4. 0
処置・処方	9 7	5. 1	7 3	4. 4
採血	3 6	1. 9	4 6	2. 8
手術	6 2	3. 3	6 9	4. 1
その他	2 8 2	1 4. 8	4 3 5	2 6. 0
合 計	1, 8 9 9	1 0 0. 0	1, 6 7 1	1 0 0. 0

3 医療安全向上のための主な業務改善

種 別	項 目	病院内で工夫された改善例
転倒・転落	転倒事故予防対策	・ 介助のいる際は申し出る内容を盛り込んだ外来患者向けポスターの作成、掲示 ・ 介助の必要性を声掛けし、安全確認を行うよう院内周知
転倒・転落	転倒転落対応	・ 頭部打撲不明で抗凝固剤使用の場合は、異常の早期発見のため、初期対応でC T撮影等の画像評価を実施
調剤・製剤管理	厳重管理薬剤対策	・ 重度の低カリウム血症に対する高濃度カリウム製剤の詳細な使用条件を医療安全管理委員会及び医薬品安全管理委員会で審議し、取り扱い管理基準を改訂し、院内周知
検査	放射線検査の安全性確保	・ 持続グルコース測定器やインスリンポンプ装着中の方に向けた検査手順の作成、ポスター掲示による院内周知 ・ 院外からの紹介者向けの周知文、フローチャート作成
処置・処方	採血・穿刺対策	・ 穿刺に伴うしびれ・痛みの症状に係る迅速な報告及び対応が行えるよう、対応フローを作成 ・ 穿刺血管の選択や手技を院内認定I Vマイスター資格教育とも共同し学習
手術	対応相談体制強化	・ 侵襲的手技(手術・内視鏡含む)での臓器損傷、大量出血等があり、タイムアウトでの予定時間、予定出血量が基準超過の場合、迅速に報告し、対応相談する体制を強化
その他	急変対応	・ 全職員がB L S (一次救命処置)研修動画を視聴 ・ モデル人形を使用したシミュレーションを実施